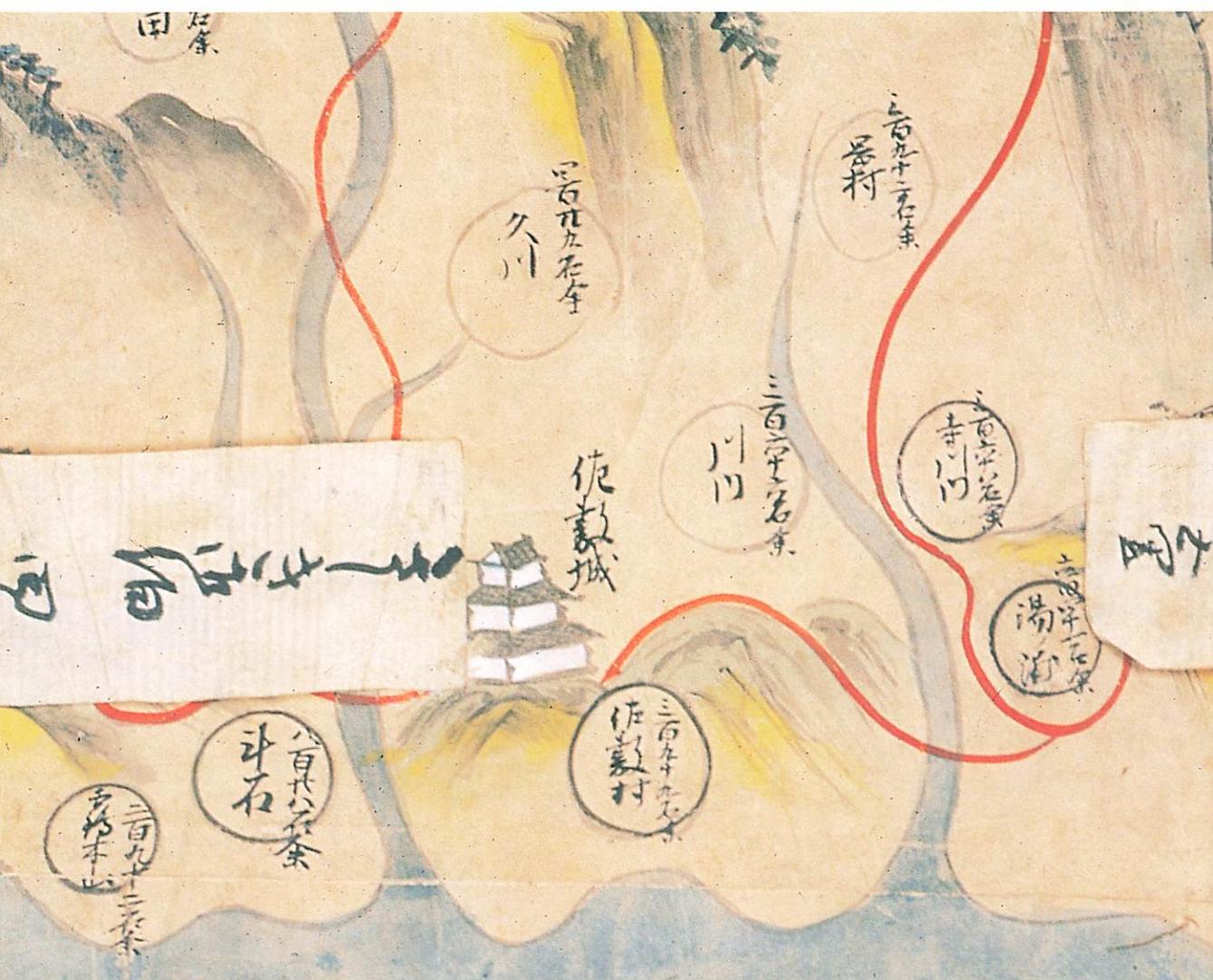


佐敷花岡城 Ⅲ

—佐敷花岡城本丸西側石垣下・三の丸発掘調査概報—



肥後国絵図部分 佐敷周辺

1997年

芦北町教育委員会

正誤表

① 2ページ 表1

本丸西側石垣下調査期間

平成9年3月3日～3月3日 → 3月3日～3月31日

② 7ページ 4行目

～鰐が出土し、丸に大規模な……

→～鰐が出土し、本丸に大規模な……

③ 18ページ 調査体制

調査指導

佐賀県立名古屋城博物館 高瀬哲郎

→佐賀県立名護屋城博物館 高瀬哲郎

④ 同ページ

芦北町文化財保護委員 山本定行

→芦北町文化財保護委員 山本定信

目 次

発刊のことば	1
1. 平成8年度発掘調査	
(1) 平成8年度の調査目的	2
(2) 調査の経過と成果	2
(イ) 二の丸・三の丸境界石垣の発掘	2
(ロ) 三の丸北部一帯	4
(ハ) 本丸西側石垣の下	6
(ニ) 本丸西北側の通路及び本丸西側門下部	8
2. 文献の調査	11
3. 出土遺物と石垣の刻印	11
4. まとめ	17
5. 調査体制	18
あとがき	19

《例 言》

1. 本書は、芦北町の城山公園内、文化財包蔵地に埋蔵された文化財の発掘調査概報である。
2. 発掘調査は、芦北町教育委員会において「佐敷城跡発掘調査団」を結成し、平成8年5月15日～平成9年3月31日にわたって実施した。
3. 調査における測量・実測・写真撮影は佐藤教授の指導により深川学芸員が担当した。
4. 出土物の整理は、芦北町社会教育センターで行い、その他の事務は、教育委員会で行った。
5. 本書の執筆及び挿図・写真は、佐藤教授の指導により、教育委員会が作成した。
6. 本書の編集は、佐藤教授の指示を受け、教育委員会が行った。

発刊のことば

この度、平成8年度の佐敷花岡城本丸西側石垣下・三の丸北部発掘調査概要Ⅲが発刊の運びとなりましたことを大変嬉しく思います。

本年度も発掘調査を進めて参りましたが、北の丸へ通じる通路から太閤桐紋の入った鬼瓦、南側の三の丸からは大変めずらしい滴水瓦や予想もしなかった階段や虎口の発見がありました。また、本丸の西側からは、桔梗紋入り鬼瓦の発掘があり、収穫の多い年であったように思います。

11月の末には佐敷城跡基本計画が策定され、今後の展望が開けるとともに、発掘調査と保存整備事業を並行して行っていきたいと考えております。

本書を発刊することによって、広く一町民の皆様にお知らせし、佐敷花岡城に対する理解を深めるだけでなく、町の活性化につなげていきたいと考えています。今後とも文化財行政に対する、正しい理解とご協力いただきますよう心からお願ひ申し上げます。

最後に調査に当たって直接ご指導・ご助言をいただいている佐藤先生、県文化課、佐敷城跡保存整備検討委員の方々に心からの感謝を申し上げ、概報Ⅲの発刊の言葉と致します。

芦北町教育委員会
教育長 大石正雄

1. 平成8年度発掘調査

(1) 平成8年度の調査目的

今年度の発掘調査では、昨年度の発掘調査により確認されたB門東側部分の石垣を手がかりとして、二の丸・三の丸境界の石垣を露出し、三の丸北部の構造を解明することに努めた。

また本丸西側石垣下の瓦の堆積状態の調査、及び本丸北西側からの登り口の確認に努めた。調査地点と調査期日は図1・表1の通りである。

(2) 調査の経過と成果

(1) 二の丸・三の丸境界石垣の発掘

三の丸にあった便所・遊具・ベンチ等の便益施設の撤去後に、二の丸南東部よりバックフォーを入れ、樹根を抜きながら石垣の確認を行った。一方、昨年度の発掘により露出していたB門東側の石垣を、人力により南に露出して行った。

その結果、B門東側を通る石垣は約17m南に進み、西に折れて約5m

進み、さらに南東へ向かって約11m続いた後、再び西に折れることが確認された。この石垣の東側に並行して、道路の直線化を防ぐ石垣の一部が残っていた。西に折れた石垣は約8m地点で、三の丸に突出する石垣に突き当たる。

この突出部は横幅が約4mで南に約7m張り出す。東側には幅1.2m奥行0.8mの凹みを持つ。また突出部の後ろには石垣が走っているので、おそらく増築されたものと思われるが、時期差はほとんどないようである。

突出部を過ぎた石垣は西へ約10m行くと折れて、二の丸西側を北に向きを変えて延びていく。大師堂西側の斜面付近へ続くと思われるが、道路にさしかかったため、角から北に約17mの地点で石垣の露出を中断した。

西側の石垣から、横十字の刻印が施されている石が二つ見つかっている。東側・南側・西側と、全域にわたって石垣の裾付近に瓦が堆積していた。これらは二の丸から落下したものと考えられる。東側の石垣の先端近くの瓦の堆積層の上から寛永通宝（1枚）が出土した。

調査地点	調査期日
準備期間	平成8年5月15日～7月11日
除草・除木作業	平成8年7月12日～8月13日
三の丸北部	平成8年8月1日～12月4日 平成9年2月4日～2月7日 “ 3月3日～3月7日
本丸西側石垣下	平成8年12月2日～1月27日 平成9年3月3日～3月3日

表1 調査地点と調査期日





二の丸東南石垣下の瓦の堆積（南側より）



二の丸南側石垣下の瓦の堆積（南側より）

(d) 三の丸北部一帯

三の丸東側に樟の大木があったが、この東側が落ち込んでいたのでバックフォーを入れて表土を剥ぎ、三の丸東側の公園階段横に見えていた石垣の所から、人力で露出して行った。その結果、礎石3個（1個欠）と階段を持つ門跡（D門）が出現した。この門は西に進んでから北に折れて、上に登りB門東側を通る通路に合流する。石段は1段を残す以外は全て著しく破壊されており、地山にその痕跡を留めるのみである。門の礎石付近には瓦が堆積しており、瓦葺きであったと考えられる。

三の丸中心部付近まで人力で発掘した。昭和53年からの公園化工事の際にかなり削られていた。三の丸中央部では、南北に走る基壇の石垣の根石が残っていた。これらは石灰岩で古い時期のものと考えられる。フイゴの羽口、赤く焼きあげられた滴水瓦（桔梗紋入り）の一部、タタキ痕を持つ瓦が出土した。いずれも元の位置を移動した状態で発見された。

西側からは、傾斜が緩く東側の石垣と酷似した石垣が発見された。西北部からは、三の丸へ西方からのぼる通路が発見された。二の丸の石垣の西南角から東に約3mの位置に礎石1個が発見された。ここに門（E門）があったと考えられる。通路は石垣の突出部のところで南に折れるが、そのあたりから鏡が出土した。



D門跡の瓦の出土状態（南側より）



三の丸中央部基壇の石垣の根石（南側より）



根石付近の瓦の堆積（南側より）



三の丸西北部通路の瓦の出土状態
(北側より)



三の丸西北部通路の鰯の出土状態
(南側より)

(八) 本丸西側石垣の下

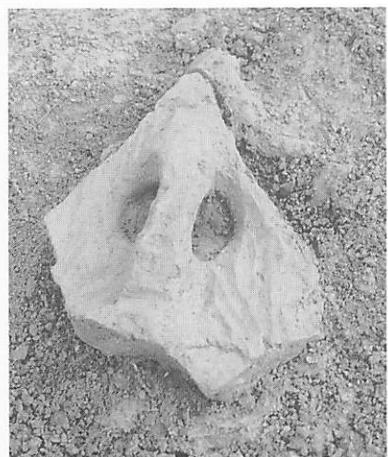
一昨年度の発掘により石垣が、昨年度の発掘により瓦の堆積が確認されていたので、それらを南から露出して行った。石垣の裾を中心に広範囲にわたって瓦の堆積が見られ、本丸から落下したものと考えられる。

大型の鬼瓦(桔梗紋入り)・鰯が出土し、丸に大規模な建物があったことを推測させる。



本丸西側石垣の下の瓦の堆積 (南より)

瓦に混じって、北側では土器片・陶磁器片が、南寄りには、鉄釘が数多く出土した。



桔梗紋入り鬼瓦出土状態

(二) 本丸西北の通路及び本丸西側門下部

本丸西北部の通路の一部は一昨年度の発掘で判明していたが、北出丸の方へどう続くか不明であった。石垣の上にあった樟の大木の根を取り除き、石垣の下を人力で堀り下げていった。その結果、通路は本丸西北部の石垣に添ってコ字形に降りて、遊歩道の下に続くことが判明した。

通路の西側はかなり破壊されており、根石の一部が確認されただけである。下部の石段は取り除かれていたが、中段の石段はかなり残っていた。通路の上部には多量の瓦の堆積が見られ、その最下面から鬼瓦（桐紋入り）や鰐と思われる瓦が出土した。これらの瓦はおそらく本丸建造物、及び本丸西側門上り口付近の建物から落下して堆積したものと思われる。ただし鬼瓦や鰐は、本丸の建物からおろして、並べ置かれたものであろう。

本丸西側門への上り口付近では、以前出土していた礎石に対応する石が樟の根にからまれ、転落した状態で出土した。ここに何らかの建造物があったと考えられる。

通路の上段に礎石が1個残っていた。ここにも門（F門）があったと思われる。



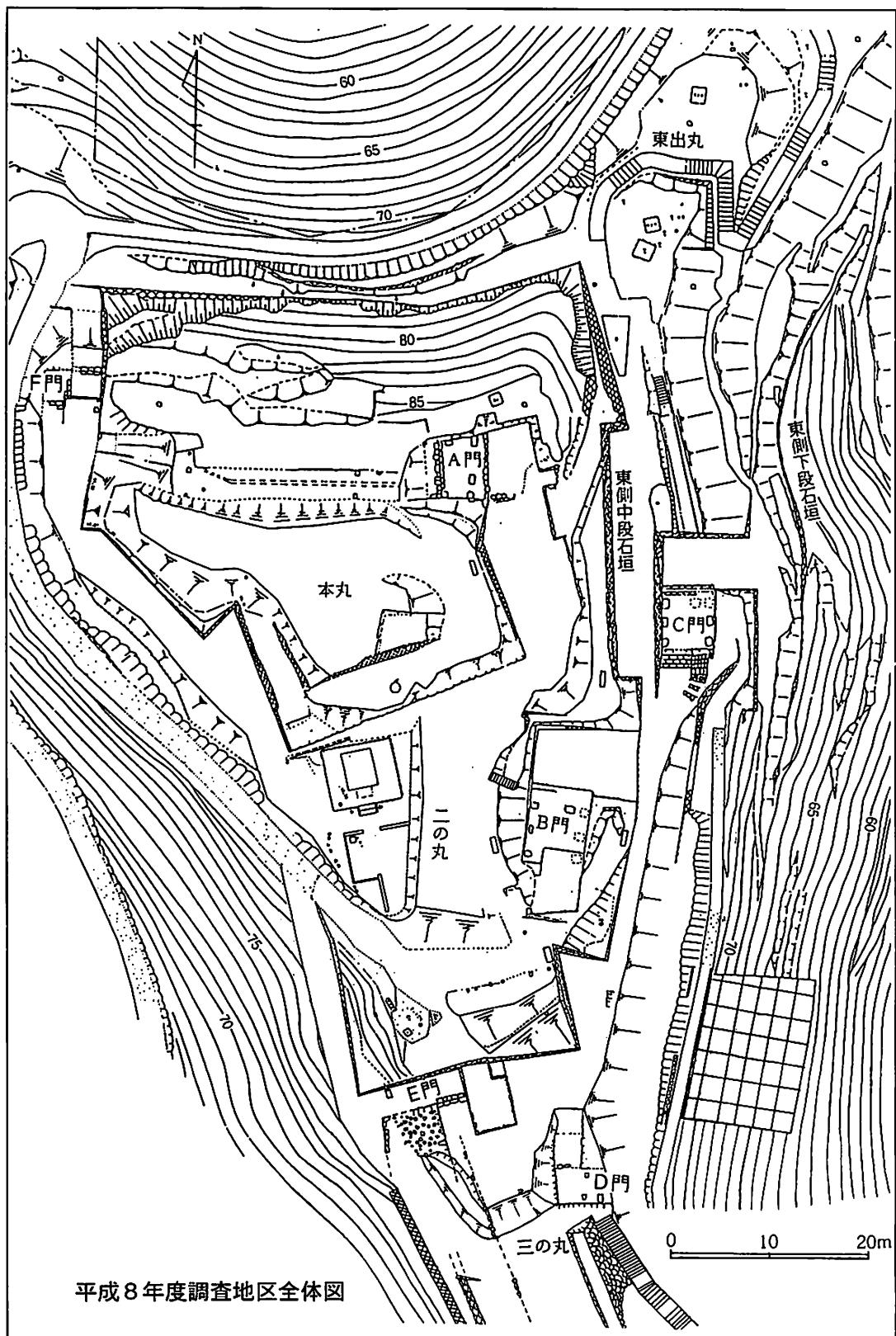
本丸西北通路の瓦の堆積（下より）



本丸西北通路・桐紋入り鬼瓦出土状態



本丸西北通路中段の石垣



2. 文献の調査

熊本大学の松本寿三郎先生にお願いした。

昨年は寛永の古城破却令までの調査であったが、今年はそれ以後、特に光尚公の時代を中心に文献調査が行われた。

3. 出土遺物と石垣の刻印

今年度の発掘調査では、今まで発見されていた巴紋の軒丸瓦、唐草紋の軒平瓦に加え、多様な文様のものが発見された。

桐紋入り・桔梗紋入りの大型の鬼瓦や、赤色（酸化焰焼成）の滴水瓦（桔梗紋入り）といった貴重なものが相次いで出土した。軒丸瓦で1種類、軒平瓦で3種類、今までとは別の文様の瓦が出土した。鰐の破片も数点出土した。昨年出土したウロコが押し型のものとは別に、ウロコを立体的に彫ったもの、精巧にウロコを貼り付けたものも出土している。

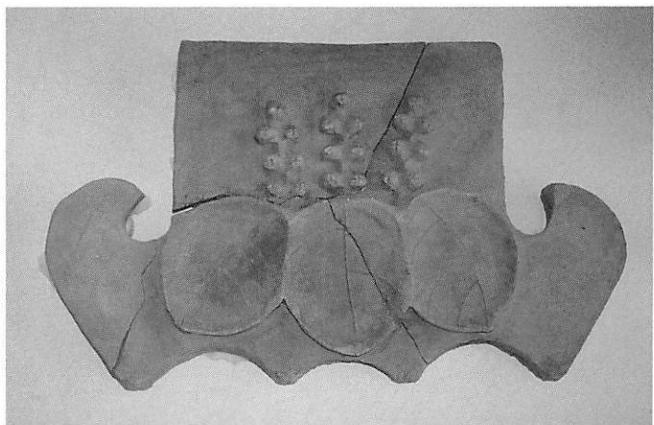
土器・陶磁器については現在整理中であり、時期や産地などについては今後研究したい。

古銭は、三の丸部分で、瓦の堆積層の上面から寛永通宝が3枚出土している。この内1枚は鉄銭である。

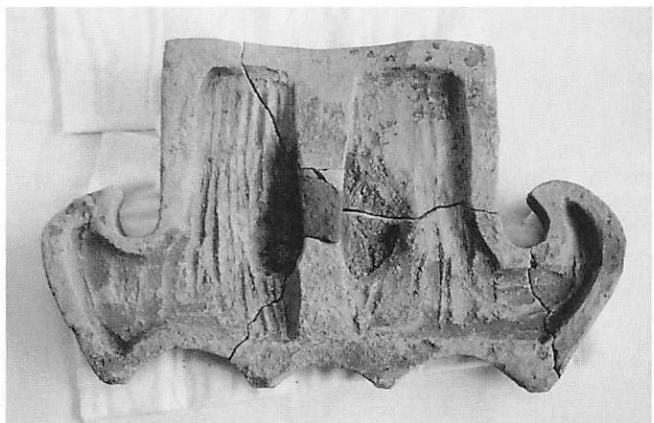
三の丸部分でフイゴの羽口が出土した。また鉄滓は発見されてないが、ここで鍛冶が行われていたと考えられる。

本丸西北部通路付近で石臼の破片が出土した。石臼の周辺で土器片が数多く出土しているので、築城の時にグリ石とともに持ち込まれたのではなく、ここで使用されたものであろう。

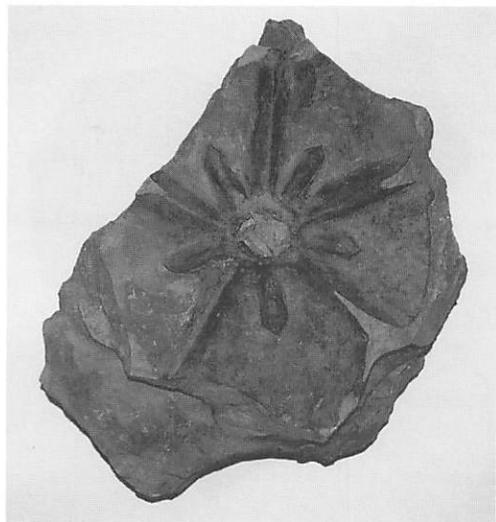
石垣の刻印は、二の丸の石垣西側に横十字の刻印が2ヶ所、確認されている。



桐紋入り鬼瓦（表）



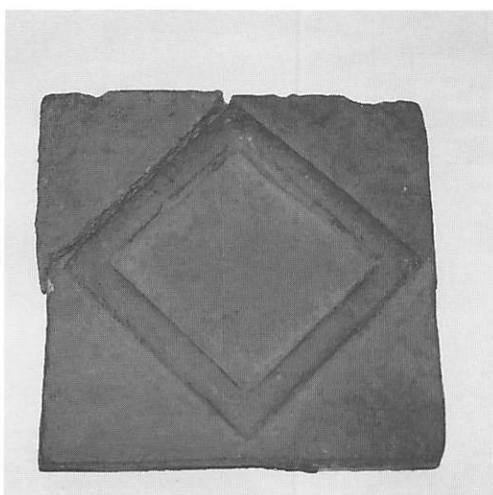
桐紋入り鬼瓦（裏）



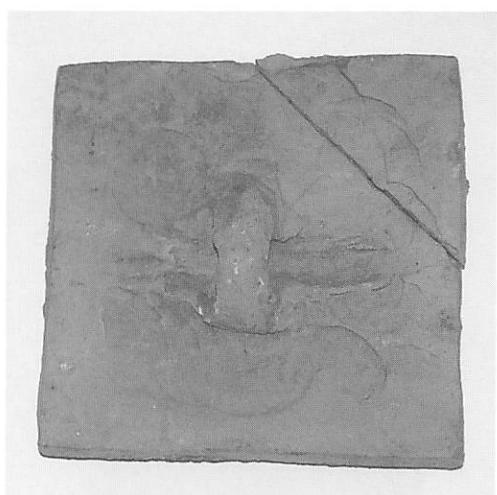
桔梗紋入り鬼瓦（表）



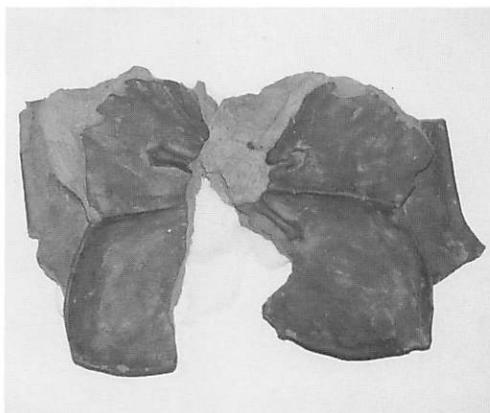
桔梗紋入り鬼瓦（裏）



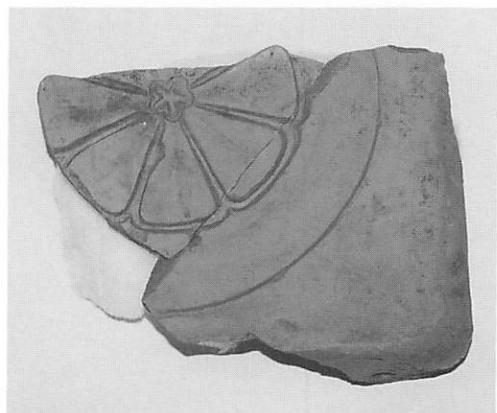
隅立て角紋入り鬼瓦（表）



隅立て角紋入り鬼瓦（裏）



桔梗紋入り鬼瓦



花紋入り鬼瓦か？



滴水瓦



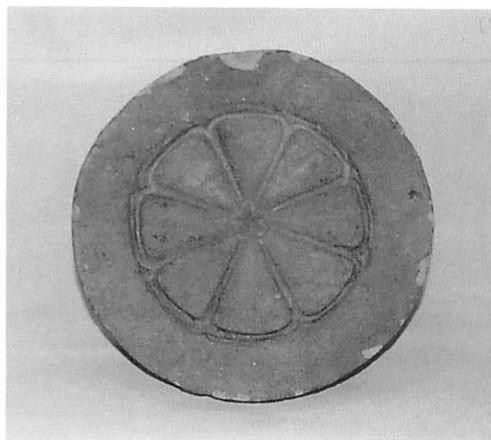
タタキのある瓦



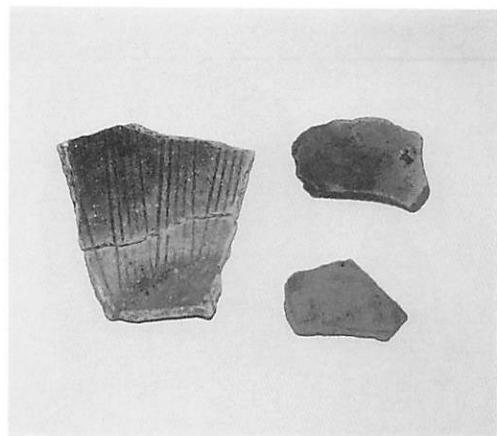
鰯



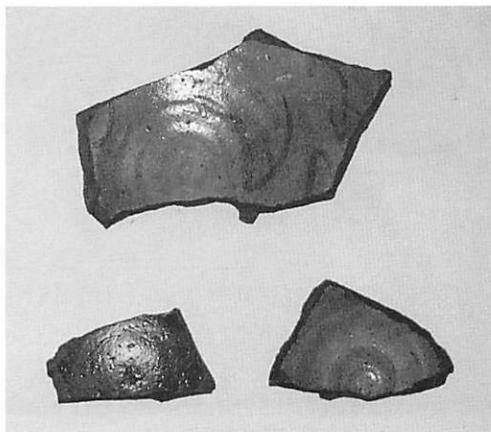
鰯 (?)



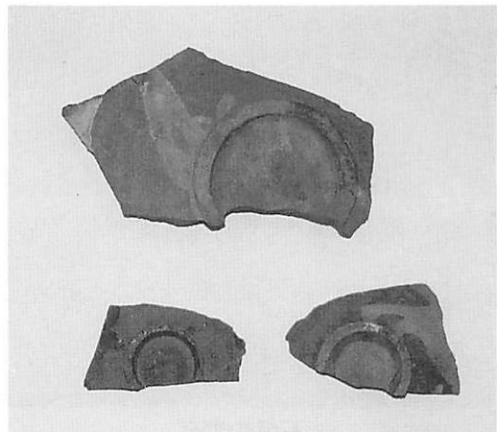
桔梗芯八つ日足紋軒丸瓦



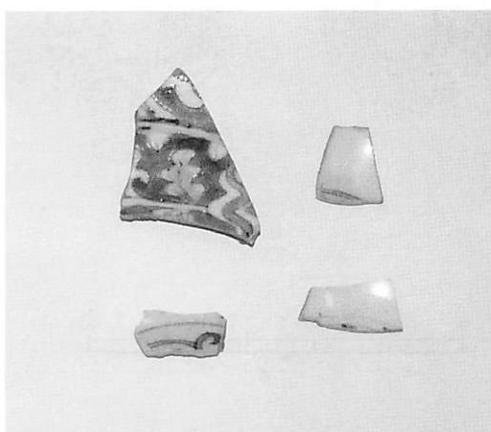
土器（擂鉢・皿）



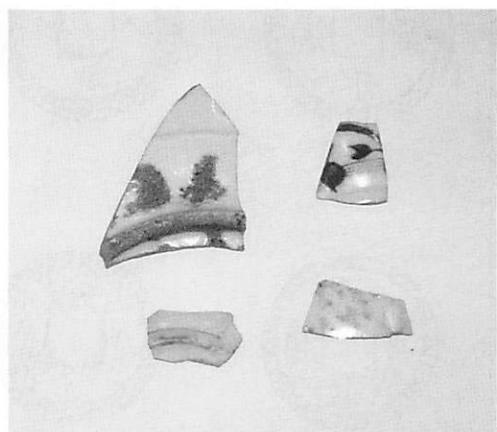
陶器（表）



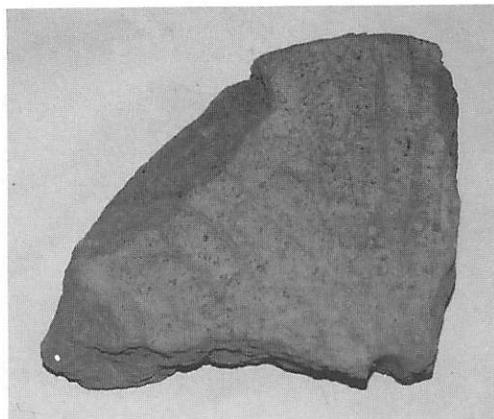
陶器（裏）



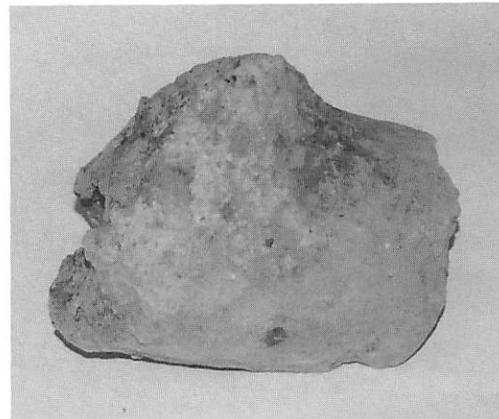
磁器（表）



磁器（裏）



石　田



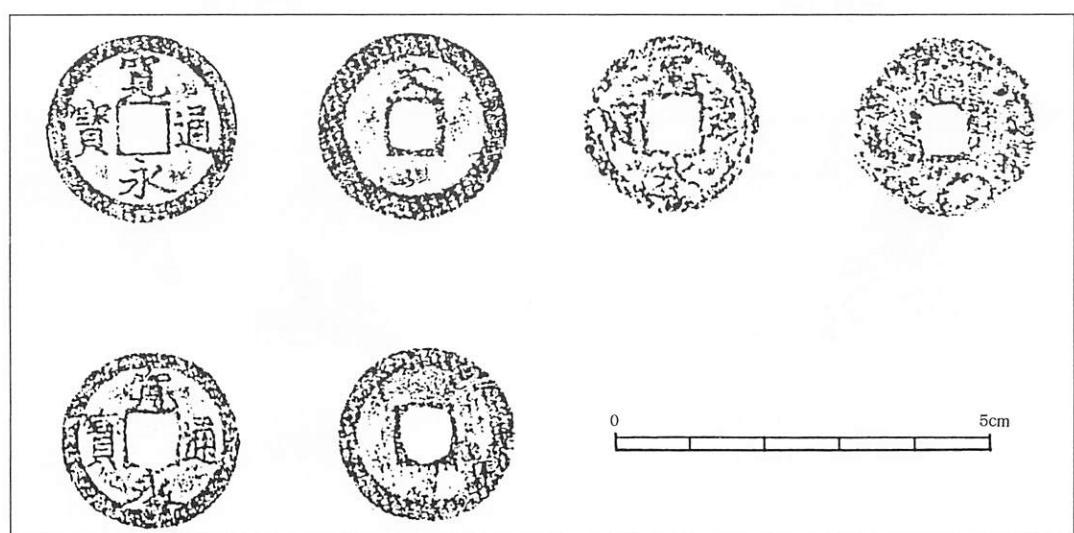
フイゴの羽口



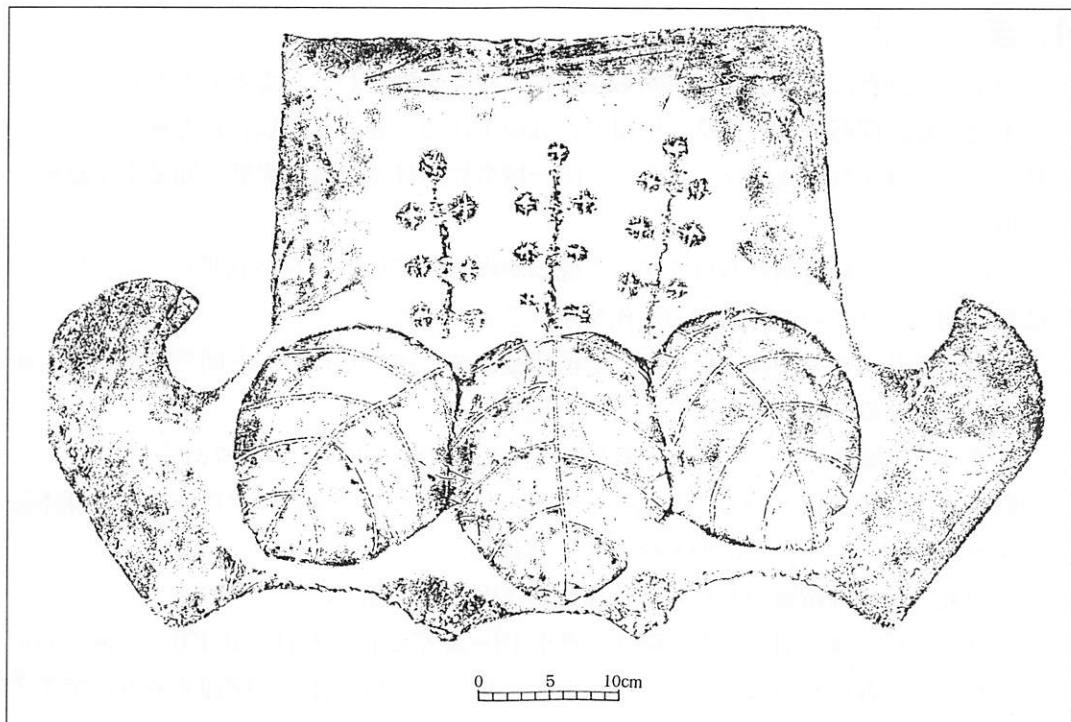
石垣の刻印



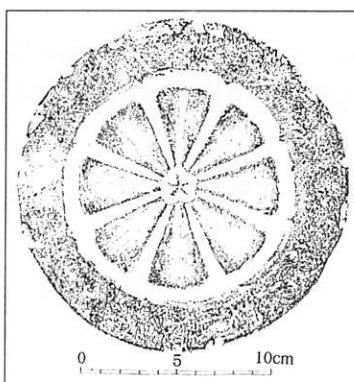
石垣の刻印



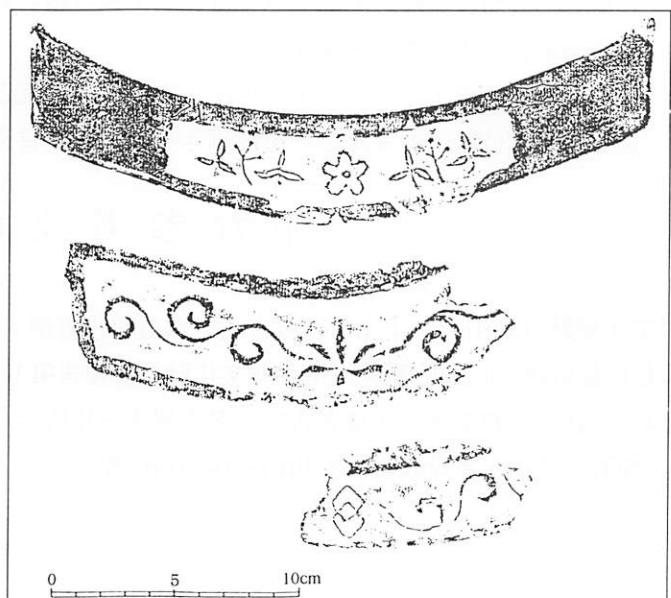
古銭（寛永通宝）拓影



桐紋入り鬼瓦拓影（花房が7・7になっている点が面白い）

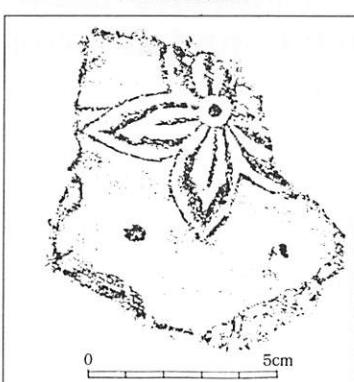


軒丸瓦拓影



軒平瓦拓影

（上段の軒平瓦が左の軒丸瓦）
と組合せになると思われる。）



滴水瓦拓影

4. ま と め

今年度の調査により、新たに明らかとなった点を列記して、まとめとしたい。

本丸の北西部石垣下の通路に堆積した瓦の下から、鬼瓦（桐紋入）と鯱と思われる瓦が並べて置かれた状態で出土し、一国一城令における破城の実態を知る上で重要な手掛かりを得た。

三の丸では古い時期の石垣を切って虎口が作られている状況が判明し、織豊期から江戸初期にかけての城郭構造の変化を窺うことができる。

出土した瓦については、その多くが前年度までに出土したものと同じであるが、軒丸瓦・軒平瓦のそれに新しいものが出土した。

赤色（酸化焰焼成）の滴水瓦やタタキ痕のある丸瓦・平瓦も少量であるが出土した。朝鮮からの瓦製作技術の流入が考えられる。なお滴水瓦は中央に年号を入れた熊本城や宇土城跡出土のものとは別系統と考えられる。

三の丸の瓦の堆積層の上から寛永通宝が3枚出土した。

これらは肥後藩主細川光尚の時代〔寛永18～慶安2年（1641～1649）〕に城の石垣を崩して、佐敷川石垣に使用したとつたえられる二度目の破城と関連するものであろう。

太閣桐の文様のある、大きな鬼瓦が出土した。

桐の文様の瓦は熊本城や宇土城跡、八代城の瓦を焼いた平山瓦窯跡からも出土している。肥後国の加藤氏関係の城では、関ヶ原の戦い以後も豊臣家の家紋である桐紋を瓦に使用したようで、興味深い。

また、昨年出土した「天下泰平国土安隱」の鬼瓦とともに、佐敷城が薩摩境の城として重要な位置にあったことを推測させる資料と言えよう。

主 な 参 考 文 献

- 『宇土城跡（城山）』（宇土市埋蔵文化財調査報告書第7集）宇土市教育委員会 1982年
- 『松岡屋敷跡・平山瓦窯跡』（熊本県文化財調査報告第150集）熊本県教育委員会 1995年
- 渡辺 誠『日韓交流の民族考古学』名古屋大学出版会 1995年
- 千鹿野 茂『日本家紋総鑑』角川書店 1993年

5. 調査体制

調査地区	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷字下町	
調査面積	1,272 m ²	
調査期間	平成8年7月～平成9年3月	
調査主体	熊本県芦北町教育委員会	
調査団長	芦北町教育長	大石正雄
調査副団長	芦北町社会教育課長	米良信一
調査主任	八代工業高等専門学校教授	佐藤伸二
調査担当者	社会教育課学芸員	深川裕二
調査指導	玉名歴史博物館館長	田邊哲夫
	熊本大学工学部教授	北野 隆
	熊本大学文学部教授	松本寿三郎
	佐賀県立名古屋城博物館	高瀬哲郎
	熊本地名研究会会長	鈴木 番
	熊本県教育庁文化課	
	芦北町文化財保護委員	山下 勉・四宮光晴 山本定行・平嶋初義 瀬口 明
総務	社会教育課係長	白菊静子
発掘調査補助員及び協力者	主事 長崎十三男	
	鎌木二男・坂梨軍喜・渡辺初義・太田 保・松本 学	
	山下良弘・平生秋生・平生 琢・石矢敬寛・豊田政巳	
整理作業員	川口トエ子・中村チエ子	

あとがき

前年より調査体制がととのい、落ち着いて発掘作業を進めることができた。大きな樹根があったこと、三の丸の北部が予想以上に複雑だったこと、桐のある大きな瓦の出土に驚いたことなど思い出も多い。

二の丸と三の丸の境界の石垣、本丸西北部の通路が明らかになったことで佐敷花岡城の中心部はほぼ判明した。来年度からは城跡の範囲を知る為の発掘が中心となる。

今までに出土した多量の瓦を整理する体制もでき、出土品の公開も進み、本丸付近の公園整備もでき、見学者も一層多くなることであろう。そろそろ城下町をどのように調査・整備し、観光客をどう受け入れていくか、本気で考える時期に来たと思う。

町民の方々の知恵と情熱に期待したい。

調査主任 佐藤伸二



鯱の発掘風景

佐敷花岡城本丸西側石垣下・三の丸発掘調査概報
平成9年3月

編集・発行 芦北町教育委員会
〒869-54

熊本県葦北郡芦北町2015
電話 0966-82-2511

印 刷 秀文社印刷

*肥後国絵図については、無許可複製を禁ずる。

